

# 色彩豊かな葉色の変化に魅せられて I

## —私の斑入り・カラーリーフ植物収集の履歴—

千葉大学名誉教授

横井 政人

昨年10月、川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」10周年記念事業として地場産業の振興を図る目的で緑化トークが行われた。ここで私は「新旧植木の保存」というテーマでお話をした。このとき川口市長 岡村幸四郎氏が臨席されていて、私の話した内容の必要性を感じられ、本年6月に私のコレクションを見たいということでご来宅された。そして私の意気込みを知り、また実際の収集をご覧になり、貴重な古い遺伝子の永久保存の価値、大切さを分かっていただけ、川口市報に取り上げていただいた。私もこのチャンスにこれまでの私の収集経過を本誌にまとめてもいい歳になったかと思い、勝手ながら筆をとった次第である。



コレクションを前にして

### 収集目的

私は大学勤務時代、植物の色彩・色素を研究テーマにした。これらの材料を求め、国内はもちろん欧米、カナダ、オーストラリア、中南米、アジアなどの植物園、庭園、ガーデンセンター、ナーセリー、園芸会社、種苗会社、趣味家、山野などを、1968年から現在まで、頻りに訪ね、日本にない花色、葉色の植物を探索・収集・栽培・記録してきた。

私の収集は、上記の色彩や色素の研究の理由のほか、下記のような環境問題との関係もあった。それは海外の収集をして気がついたことだが、多くの国が空港か

ら街に出ると、暗い雰囲気の日と違い、明るく、美しい。特に日本の冬に、アジアや南米の熱帯地から帰国すると、明暗の差は大きく、日本は昼間でも暗黒といえるほど暗いのに驚く。このような環境の明るさの差は、結局、日本には以下の文献や次号に示すような、周年明るい花や葉色をもつ植物がその環境に少ないためと、私自身結論づけた。そして私の収集は、日本に少ない明るい花や葉をもつ植物をもっと導入し、環境を明るくできたらと考えたからである。

また斑入り植物などの新品種、珍奇、珍品の収集は金もうけややくざの仕事という人もいるが、私自身は金銭のための収集・生産には関心がない。生産販売者にも、枝や種子などの材料を隠さず、無償で提供することになっている。むしろ興味のある人には積極的に提供したいと思っている。

収集の理由にはもう一つある。それは現在栽培されていない江戸、明治、大正、昭和時代の、古い、貴重ともいえる遺伝子の保存という意味の、“生きた植物”の保存・維持をしたいということである。さらには、新しい発見もして、保存したいという夢も持っている。これらの点は世界の課題であるが、日本のような狭い国土で、人口の多い国では、最も難しい問題になることは明らかである。土地が広大で豊かな国の収集はうらやましいことである。

### 収集初期の斑入り植物世界事情

収集視察を始めてから、私として最初に発表したのは、1975年、園芸文化協会誌『園芸文化』である。「ヨーロッパの斑入り植物」と題して、15枚の白黒写真で、日本にはまだ見られなかった斑入り植物を紹介した。

当時、既に英国オクスフォード植物園には100種を超える斑入り植物があり、驚き、参考になった。ここには遺伝的におもしろい種類や斑入りが多数植えられ、同園の育種家バラス氏により植栽リスト（1964～）

が作られていた。

その前1960年には、同園のG. W. ロビンソン氏により、英国園芸誌ガーデナーズ・クロニクルに「オクスフォードの斑入り植物」いうテーマでかなり詳しく植栽植物が紹介されている。また現在はないが、キューガーデンの庭隅にも珍しい斑入り植物が植えられていて、必ず立ち寄って見た。

このころは日本ではまだ外国の斑入り植物やカラーリーフプランツがほとんど導入されていなかった時である。英国やオランダの植物園やナーセリーには珍しく美しい種類が多く植えられ、また販売されていて、興奮したものである。

最も驚いた斑入り植物のコレクションは、ウエストミンスター銀行の研修所にあった。ここは一般公開をしない広大な庭園で、セイヨウトチノキの覆輪品種（現在導入）の巨木が印象的であった。その他、多くの斑入り珍木が、大きな円形のベッドに植えられていた。これらのコレクションは各地の銀行の室内外の環境装飾・美化に使うための収集とのことであった。日本の銀行とは違う、信じられない余裕を感じた。

植物収集の初期は、ほとんどはハンブシャー・ウエストミンスターにある著名なヒリアー・ナーセリーからであった。最初に訪問した1968年当時、300haのコンテナ植木・宿根草農場があり、収集用圃場や見本園は30ha。ここに世界最大といわれる8千種の樹木が植栽され、その規模とすばらしさを見てびっくりした。500ページを越す便覧がカタログで、広大な農場に、これらの植木や宿根草がコンテナ植えとなっていて、自分で欲しい植物を自由に、1本でも一輪車で集め、ただちに購入できた。しかも根の洗浄は自動的に泥が流れるようになっている装置があり、効率的で、一人でも楽に根洗いができた、最高に便利な農場であった。しかも扱っている種類は斑入り植物やカラーリーフプランツなどの貴重な品種もひじょうに多く、300品種も一度に購入したときもあった。訪れるたびに種類・品種が増え、まだ土地が足りないと言社長はこぼしていた。こんなお話を聞き、収集地を見た私自身、すべての植物の収集は日本では無理とあきらめた。

しかし残念ながら、先代社長がなくなってからは、以上のような多品目・少量・注文生産から少品目・大量生産に変わり、農場は立ち入り禁止にしまい、契約またはガーデンセンターで購入する一般的な農園に変わってしまったので、収集家は利用できなくなっ

てしまった。現在、元収集圃場は市に寄贈され、一般公開されていて管理も行き届いており、美しい。

## 収集の苦勞あれこれ

具体的に収集の苦勞話をする、英国で私が収集を始めた頃はまだレンタカー会社が空港になく、ロンドン市内の小さなレンタカー会社で借りた。現在はレンタカー会社が空港に設置されて便利になった。昨年にはナビゲーションも使えるようになった。

私が訪れた国の中では、英国が収集には最も便利である。左側運転で道路がよく、標識も分かりやすい。それにガーデンセンターや農園など、興味ある場所が特にロンドン周囲に集中している。植物には必ず学名のラベルが、どんな小鉢でも、ちゃんとついている。

最高によいことは、全英の販売植物・品種リストである『プラントファインダー』が毎年改訂され、地図も詳しくしっかりしているので収集家には本当に助かる。英国ではこのリストがなかった時期をプレ(前)・プラントファインダー時代といっている。1987年が第1号で、本年が20周年号になった。1号は地図がなく、407ページ 掲載植物2.2万種類、最新2007~8号は809ページ 掲載植物7万以上とすごい発展である。ヨーロッパ諸国版もあるが、荒っぽくまだ不完全といえる。

オーストラリアの国も次に便利だが、これほどではない。米国は国が広くまとまらないのか、このような便利ナリストはいまだにない。中南米やアジアにはまったくない。日本では日本植木協会新樹種部会が普通品だけのリストは作っているが、すべての植物は扱っていない。

私が収集を始めた1960年代後半には、電話帳で行く場所を見つけるしかなかった。

また、ロンドンの高速環状線がなかった頃は、南



Plant Finder 1号左側 20号右側。厚みもかなり異なる

北・東西の移動にはロンドン中心を抜けて行かなければならないので、時間がかかり面倒であった。英国の高速道路は橋など一部を除いて、旅行者は税金がなく、無料なので助かる。英国は安全な国といわれているが、これまでに一度だけ車の窓ガラスが割られ、カーステレオが盗まれることがあった。

言葉の分からない国では車で走ることができないので、現地の人に頼まなくてはならないので大変である。さらにゲリラやテロのある危険な国もかなりある。以前、静かな国の頃のミャンマーを1度訪れたが、りっぱなクロトン収集家がいいたことは忘れられない。

## 国内での収集歴

植物の探査・収集は1965年頃から、国内のガーデンセンター、農園、植物園、趣味収集家などを訪ね、日本産の斑入り植物やカラーリーフプランツを知ることから始まった。各地の先輩収集家をひんぱんに訪ねた。

正確には日時は不明だが(1960年後半)、私が神奈川県の大船フラワーセンターで花木の育種を始められていた故脇坂誠氏がおられ、将来の外国樹種についていろいろお話をお聞きした。ちょうどそこへ、当時既に斑入り植物収集家の広瀬嘉道氏が勤務中の山口の会社から出張途中に広瀬農園に寄られ、初めてお会いした。そのあと皆さんは熱心に語られ、植物談義は尽きなかった。

この時から、私は斑入り植物探査には知人が多い広瀬嘉道氏と、国内外にお供することが頻繁になった。80歳を越された広瀬氏はすこぶるお元気で、現在でも収集旅行には時々ご一緒に、新しい斑入り発見を楽しんでいる。

## 自宅の庭で収集管理

海外への探査は、1968年、第1回の米国、第2回ヨーロッパ視察から始まり、現在まで正確ではないが100回を越すであろう。

1971年、私が東京から埼玉県川口市安行に移住した時から、さらに積極的に収集を行い、狭い土地がちまちまいっぱいになってしまった。これでは緑の葉の植物は植えられないので、カラーリーフプランツや斑入り植物のみに絞って集め、植え始めた。

私の目的の植物収集はすぐに終わると思っていたが、世界は広く、日本にないカラーリーフプランツや斑入り植物が無数にあることがわかり驚いている。最

近カラーリーフプランツや斑入り植物が世界的に多く利用されるようになり、オランダやタイから斑入り植物の本が出版された。しかもタイの本は2巻あり、広瀬、横井の姿写真が載せてある。さらに新しい種類も続々発見され、収集は現在になっても終了しない。

終了しないどころか、私の住んでいる安行地区には小さな小さな会、変人会というのがあり、経済性、新規性のある新品種、美品、珍品、貴品、奇品、希少品、珍奇品、貴重品といわれるものを常に求める終点のない会がある。私もメンバーの一人であるが、柴道 昭、浅見良一、石井 力、鈴木祐司、小林隆行、佐藤 昇、山口清重だけの中老年の会である。が、熱のあることは最高であろう。

研究材料の収集から始まった植物探査は76歳の現在、やや低調になってはいるが、まだ継続し、海外に出ることもある。しかし現在は若い世代の動きも始まり、新情報も早く伝わり、新しいIT利用の国際的な会社もでき、ほとんどの種類がすぐに導入されるようになってきているので、以前より出かける必要が減ってきていることは感じる。

## 収集環境今昔

振り返ってみると収集初期の不便さはアシ、記録キカイにある。鈍行、夜行、混雑、故障が常識で、目的地に行くことが大変。雨除け合羽は重く、リュックも重い。レンタカーなどはない、自家用車もなしで、すべて歩く。さらにキカイのカメラは自動ピントでなく露出計もなく、和製フィルムは感度も質も悪く、変質は常識、故障の続出。カメラは機能変化(66版、ハーフサイズなど)が激しく、機械の保存が難しく、現在になると当時の写真はまったく使えない始末。植物リスト作成はすべて手書き。初期の複写機も色は悪く、変色は当たり前、ゼロックスが出るまでの保存はまったく無駄になった。このように植物の収集以前の問題が山積。こういう状況の中で日本国内の収集は始まった。現代の若者には想像もつかない条件であろう。

ところがこの10年の日本の発展はめざましく、収集に必要な条件はすべてそろったといえる。なんといってもコンピューター、インターネット、ホームページ、デジカメ、コピー機、携帯電話などの発展のためである。しかもこれらの総合利用が容易に可能になって、収集に必要な事務管理の仕事はものすごく能率化した。例えば、以前の紙のカタログ利用からホームペー





コレクションは移動可能な鉢植えにし、  
灌水チューブを使っているが…

ジのカタログに替わり、品種などのリスト作りや画像処理、ラベル印刷などが楽になるなどである。

しかし齢76になった昨今、灌水、施肥、病虫害防除、剪定などの作業は能率よく思ったようにさばけず、収集品の栽培管理が大変である。特に今年のように暑さ

や乾燥が続くと、日中は仕事ができないので雑草だけが伸びる感じがする。かつては鉢数も1000を越えたときもあるが、現在では700~800鉢になった。しかし斑入りやカラーリーフの葉色の四季変化を観察し、新品種の発見を期待するなどの楽しみで、細々とコレクションの喜びを感じている毎日である。

いまだにいくら考えても、土地が狭い日本の収集条件・状態・環境は、欧米、例えばウイズレイやキュー植物園に比べると貧弱で、残念ながら100年は遅れているとしかいえない。たとえ貴重な種・品種が入手、導入できても、保存・維持には土地、経費、労力がかかる。生きた植物の保存、維持は、日本では至難の技なのだろうか？

さて、スペースの関係から、思い出のある斑入り植物やカラーリーフプランツの種類・品種の写真は来月号で解説することにした。

最後に、本文の補足として、これまでに私がまとめた斑入りやカラーリーフプランツの記事をリストアップしよう。

- 1) **ヨーロッパの斑入り植物** 園芸文化 (園芸文化協会) 1975秋
- 2) **草木奇品家雅見・解説** 1976 岩佐・塚本・笠原・前島・芦田・広瀬・横井 (青青堂出版)
- 3) **草木錦葉集・解説** 1977 塚本・芦田・岩佐・岡村・広瀬・前島・横井 (青青堂出版)
- 4) **洋種花木の斑入り** 新花卉91号 1976
- 5) **熱帯性カラフルリーフプランツの色彩** 新花卉 92号 1977
- 6) **原色斑入り植物写真集 現代草木錦葉集** 1978 横井・

広瀬 (誠文堂新光社)

- 7) **今後注目したい海外の園芸植物 宿根草、花木** '84 花葉サマーセミナー テキスト
- 8) **英国のガーデンセンターを見る** 花葉1987 (6)
- 9) **私の提案：園芸植物の保存について** 花葉1990 (9)
- 10) **イギリスで花と緑を探る** (農園) 花葉1993(12)
- 11) **カラーリーフプランツ 葉の美しい植物の図鑑** 横井1997 (誠文堂新光社)
- 12) **英国のナーセリーを訪ねる** 英国王立園芸協会日本支部1997 (12)
- 13) **斑入り植物集 1** (1998)、2 (2001) 広瀬・横井、3 (2006) 広瀬 (ヴァリエナイン社)
- 14) **カラーリーフ&バリエゲータッド・プランツ** 1998 日本植木協会新樹種部会色彩委員会
- 15) **注目したいカラーリーフ素材 (含む斑入り)** '99 花葉サマーセミナー テキスト
- 16) **植物のいろいろ(花色、葉色)** 園芸世界 改良園通信販売部 2002~2004 [連載24号]
- 17) **魅力のカラーリーフプランツ** 農耕と園芸03(10~12)、04(1) 連載
- 18) **江戸時代からの斑入り植物** 花葉 2005 (24)
- 19) **川口緑化センター・道の駅10周年記念事業記念記録** 2006
- 20) **ひと 横井政人 色彩豊かな葉色に魅せられて** 広報かわぐち 702号2007 (川口市役所広報課)
- 21) **庭を明るくする斑入り植物** NHK 趣味の園芸ガーデニング21 2007 横井政人監修 (日本放送出版協会)

以上のような収集にあたり、国内外各地でひじょうに多くの方々にご指導・ご援助を賜っている。しかしここでは、私がお会いした故人で、斑入り植物に関心を持たれた方のお名前を挙げさせていただく。そして斑入り植物史の中のお一人として、貴重な記録のひとつにさせていただきたい：有滝龍雄、岩佐亮二、岩佐吉純、植村猶行、大河内定彦、金子春吉、加藤 要、加藤光次郎、川原田 林、桜井 元、鈴木春吉、中村隆吉、中田億右衛門、根岸八朗、塚本洋太郎、萩谷 薫、平尾秀一、前川文夫、増田七郎、溝口正也、谷井自助、山田義孝、吉江清朗、脇坂 誠、Douglas Dawson、Harold Hillier、J.C.Raulston、G.W.Robinson、Stephan Taffler。以上